



第661号

令和2年7月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのひ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

暑気ぐらしへ学びと試み

はるのひ館



『新しい世界へ』

またものすごい人が出てきたものですね、藤井聡太・新棋聖！これまでの将棋界は一体何だったのでしょうか？雲の上の方々が啞然とするのですから、雲の上にさらに雲の上があったということでしょうか？

それにしてもあの落ち着きぶりはどうでしょう？まるで五十才か六十才かのような…。

見え方が違うのでしょうか？例えば、山のふもとに立って、さあこれから登ろうというとき

私にはすぐ前の樹々しか見えないけれど、歩き慣れた道のように、どこに沢がありどこに倒木が横たわっているかよく分かっているという感じ？いや、どうもそうではなく彼の場合は、どんどん道を作っていくような。

沢があればそれを埋め、倒木があればそれを押しつけて、道なきところに道を通していくような。

そういえば渡辺明前棋聖が「エンジンが違う」とか感想を述べていましたっけ。

AI時代の幕開けとともに彼によって新しい将棋の世界が始まるかも知れません。

天理教教祖（おやさま）もまた新しい考え方・生き方を創り出そうとされたのではないのでしょうか？

ちようと、幕末から明治にかけて、時代の大きな変わり目と時を同じくして、農家の主婦であった一女性が

見えない人が見えるようになったり、立てない人が立てるようになったりいわゆる奇跡を起こし

欲望というエンジンから喜びというエンジンに変え、陽気暮らしという世界理想を描き出し

いちれつきようだい、互い立て合いたすけあいという生き方を提示されたのです。

心の成人をめざして

よろこび・つつしみ・はたらき

六日月次祭祭典講話

会長 芝 太郎

『優先順位』

皆さんこんにちは。本日は久しぶりにお集まり下り六月の月次祭をつとめて頂きました。

今、潤子が一生懸命、自分の言葉でなんとか説明しようと悪戦苦闘していたわけですけど、それと重なるとは思いますが、この三ヶ月四ヶ月間、半年近く続いている世界的な節。その意味を改めて考えたいと思います。

一番 二番 三番

このコロナの問題ではつきりしたのは、物事の優先順位がはつきりした。何が一番大切かとおのずとみんな世界中の人々が、やっぱり命やと。これは大変な命に関わる病気。感染したら、まず健康が脅かされる。重傷になったらすごくしんどいらしいですよ。だから命。そして健康が大事です。

また皆、家に籠もらざるを得なかった。家庭が安らぎの家庭だったら、家にこもっていてもいいですよ。一人暮らしの方でも安らいでいたら、テレビ見たり自分の趣味をしたりして、いわゆる引きこもって、ネットでなくてもいいです。しかし、さみしいとか、もめ事があると安らげないですよ。一番優先順位が生命。生命あつての物種といえます。それから健康。そして家庭。他の事はね、まあ仕事も含めて他のことは何とかなる。この命と健康と暮らしの安らぎがあれば、後は少々うまくいかないことはあっても辛抱しながらね、通ってまたやり直したり、盛り返したりできる。命と健康が危うくなればもうそれどころじゃない。これはもうみんなが実感して切実に思ったと思うんですね。

これがコロナだけじゃないけれども、親神様がいつも私たち人間が困ったこと、事情身上、困ったとき、いつもそれがして欲しいんですよ。親神様はね。

何もそんな難しいことではなくて、何が一番大事かということ。命が大事ですやろう？と。健康が大切やろうと。それで安らぎの場が大切でしょうと。後のことはまあなんとか辛抱してあとで取り返しがつくけれども、命は取り返しはつかないよと。これが真実だとおっしゃっているのですよ。

ところが忘れてしまう

何もコロナを見せなくても、津波にならなくても地震にならなくても、何も難しいことじゃない。ところがコロッと忘れるんですよ。命や健康はあつて当たり前やから。もつとお金が欲しい、「欲に切りない泥水」で、もつともつと百万円貯めた、まだ足りない、一千万円。まだ足りない、一億。もうこれでええというのがない。そんな貯めたことがないから分からんけど、でもそうなるともう命が大事ということは忘れる。

さつき潤子が言ったように、身体の言い分を聞かないで、体がもうしんどいと言うてんのに、お酒が飲みたい、タバコが吸いたい、体はもうええんやと、もうそんなしたら肝臓やられるよ、肺も真つ黒になつてると、体は言うてんですけれども、いやいや好きなようにしたいんやと。人のことなんかほつとけ、人を倒してでも、俺のためにはみんな言うこと聞け、権力のために、お金のために。俺の言うこと聞け言うて、みんなを引っ張つていつて欲を追求する。それがもう普通なんです。普通になつてゐる。

私たちも。ついつい偉そうに僕は言ってますけども、じゃ

あお前はどやうて言われたら、同じなんです。それはなぜかと言うと、優先順位を忘れるから。命があつてこそありがたい。健康があつてこそありがたい。この優先順位をついつい忘れて。それ以上の三番目四番目のことを追求するから、だからめめ事や争いが起きてくる。戦争までも起きてくるんですよ。難しいことじゃない、その起きてくる原因はみんなそれです。

この優先順位を忘れて権力やお金や、領土を追求しすぎるからですね。忘れるから何度も何度も、何が大事かと教えないと神様としてはね、何が大事かと教えないといけない。だから今度はみんな世界中の人がこの優先順位はもう身にしみて、やつぱり命や、やつぱり健康や、その他のことは何とかなるわと、身にしみてみんな感じているんですけれども、しかしその意味はあんまり分かつてない。意味が分かつてないから、もうある程度落ち着いてきたらやつぱり仕事しないとやつていけへんど、やつぱり旅行もしないと面白くないがなと、やつぱり酒飲まないと面白くないという風に、この優先順位はすぐにケロッと忘れる。それでいいんです、それでもいいんです。私もそうなんですからね。

しかし、毎日これを、この優先順位から始め、その命と健

康は誰が作って誰が守っているか。もちろん自分でも氣をつけてますけれども、マスクしたりアルコールしたり、氣をつけてますけれども、本当はそんなことでは守れない。僕の知らない心臓が勝手に動いてくれて、ご飯食べたらこなしでくれている。悪いものは便になったり、おしっこになったりして出してくれて、四十兆の細胞が一生懸命働いてくれる。それはもう忘れてますよ。そんなことは忘れてていいんです。なんでってみんな神さんがしてくれているからね。

天然自然という舞台あつてこそ

だけどの舞台、この天然自然という舞台で芝居ができています。舞台があつての私たちですよ。そういう生き方をすればあんまり大きくずれていくことはない。だけど舞台のことを忘れるから、天然自然があつての話、それをついつい忘れてまだまだまだということで行くから、家庭でも争いが起きる。社会でも差別が起きる。いじめが起きる。ついには戦争になる。

だから毎日毎日一人一人が、何が大事か優先順位をね、いつも命が、健康が、そして安らぎの場が大事。それが出来るならば、もうそれだけでありがたいやないと。喜びや、と

いうのはその喜びなんですよね。

何も欲望を追求しなくても目が見えたらどれだけありがたいか、見えない人からすればもう何億円出しても欲しいんですよ。足が動かない人からすれば自由にトイレ行ける、その足はもう何億円出しても欲しいんですよ。手が動かない、自分でご飯食べたい。そういう人にとっては手が動いたら、何億円出してもいいんですよ。僕らは手も自由に動いて、ご飯食べたい時に食べられる、トイレ行きたいと思ったらすぐ行ける。何億円出してもいいものを、既にもう持つてるんですよ。無い人からすれば何億円出してもいい、そのものすごいお金に変えられない値打ちのものを、僕らは普通に持つてる、持つてるのにそれを喜ばない。

何故か。優先順位を忘れてるから。命と健康と神様のそういうご守護があつてこそっていうことを忘れるから、まだまだあれも欲しいこれも欲しい、足らないと文句になっちゃうんですね。

生まれて生きてなければこの舞台にはおらないんですから、もう何十年かしたらみんなこの舞台はもういないんです。わずかな間、今一緒にこの舞台の上で芝居をしてる。また同じ芝居するんやったら、わずかの間やから仲良う陽気にやろ

うよ。なんでそんな殺し合いするの。お互いに寿命はもう限られて、殺さなくてもいつか死ぬんや。そうでしょ。殺さなくてもいつか死ぬのに、そんな大切なわずかの命を何で棒に振るんですかと。

いつも陽気暮らしを心がけて

じゃあその舞台をより良いものにしていきましょう、と。みんなで力を合わせてね、それは陽気ぐらしに向かうお互いの協力なんですな。

昔に比べれば確かに日本も世界もすごく良くなっていますよ。便利になつてきた。だから百年前のスペイン風邪と比べれば、やっぱり対策はちゃんとみんな世界的にとれてる。犠牲になった人も多いですけども、百年前の流行から比べれば衛生状態も良い。医学も進んでいる。社会状況も良くなっている。人類は確かによくなっているんです。特に日本はもう他の国から比べれば羨ましいぐらい衛生状態は凄くいい。だから感染が少ないと僕は思うんですよ。衛生状態も医療体制も、全部が保険に入れてね、社会の仕組みもこんな素晴らしい国はありません。ここで文句言つてたら、他の国の人たちからなんで日本で暮らしてて文句言うの、というぐらいでし

よう。

それでも僕たちは親神様のおかげで生かされ守られていること、また先人たちのおかげ、人々のおかげで安全、便利、快適に暮らしていることを忘れます。私の場合はどう忘れま
すから、毎日朝に夕べにお勤めして、そこでちよつとそれか
けた、落ちかけたところをなんとか盛り返して、ここまでこ
れたと思います。そういう意味でお道、天理教の教祖のお
話を聞いた、聞いている者の値打ちはそこにあります。

全ての人が本当は知つてべき優先順位、そして常にこの
基本から生活を人生を家族を社会を組み立てていくという
ことをいつも忘れないでやつていきましょう。ありがとうご
ざいました。

天理教教典学び

坂井 潤子

【第六章 てびき】

61頁11行目～63頁8行目

しかし、人間心のはかなさは、折角、てびきを頂いて、心を定めても、時がたてば、一旦定めた心もいつのまにか動いて、形ばかりの信心におち、知らず識らずのうちに、又もや、親心に反する心を遣うたり、行をしたりして、しかも、氣付かずにいる場合が多い。

神の自由して見せても、その時だけは覚えて居る。なれど、一日経つ、十日経つ、三十日経てば、ころっと忘れて了う。と示されている所以である。故に、

日が経てば、その場の心が弛んで来るから、何度の理に知らせにやならん。

と仰せられ、ともすれば弛みがみちな心をはげまして、なおも心の成人を促される上から、信心するうちにも、幾度となく、身上や事情の上に、しるしを見せ、心を入れ替える節を与えられる。この篤い親心を悟って、益々心を引きしめて通

つてこそ、生涯変らぬ陽気づくめの理を見せて頂ける。

かくて、教の理が胸に治り、心が次第に成人するにつれて、大難は小難に、小難は無難に導かれる親心が、しみじみと感じられて、今まで喜べなかったことも、心から喜べるようになり、今まで楽しめなかったことも、心から楽しめるようになる。

陽気づくめの境地への力強い足どりが、こうして進められてゆく、

しやんして心さためてついてこい

すえはたのもしみちがあるぞや

私は天理教については全く知識がありません。そのため會長さんにいろいろと質問しながら考えさせてもらいました。僭越ながら考えたことをお話させて頂きます。

天理教教典『てびき』から今回私の担当させて頂いた内容を自分なりに解説させて頂きました。結論から申しますと、人間は忘れるという能力を持っているため、一度決めたこと、理解したことも時間が経てば忘れてしまう。そこで神様がおっしゃっていることは、「忘れたら忘れた時に何度でも教えるよ。だから、その時に、考えて、答えてね。そうすると楽

しいことがあるよ。」とおっしゃられていると考えました。

私はこの自分の出した答えに、3つのなぜだろう？を付けました。皆さんはどうでしょうか？

私は、今回『てびき』を読ませて頂き、神様は「しやんして」という言葉をよくお使いになると感じました。そのため、私たちは自分の考えを持つことを神様は求めておられると感じました。まず、神様のおっしゃられていることに対して、しやんし、自分の意見を持つことを望まれているようです。そこで、皆さんは今回この『てびき』を読んでどう思われましたか？と僭越ながら問わせて頂きました。

私の3つのなぜだろう？その1）なぜ人間は物事を忘れるように出来ているのか？なぜ、一度決めたこと理解したことを忘れてしまうのか？

私の3つのなぜだろう？その2）なぜ神様は何度も教えてくださるのか？

私の3つのなぜだろう？その3）神様は「そうすると楽しいことがあるよ」とおっしゃっていますが、なぜ最初から楽しくしてくれなかったのか？

私の3つのなぜだろう？その1）から考えていきます。な

ぜ人間が忘れるという能力があるのか？これには、また2つの理由が私はあると思います。その内の1つ目について考えます。

忘れて良かったと思うことは日々の日常の中でたくさんあると思います。例えば、今日の私の出来事からですが、私は今引越しの準備をしています。先ほど清掃業者の方と電話で話をしました。その清掃業者の対応の悪さに苛立ちを感じました。その後、その苛立つた気持ちをなんとか早く忘れるように心がけました。が、なかなか忘れられず、イライラしていました。しかし忘れられました。そして今心は平穏です。忘れられて良かったです。

これは小さな日々の出来事ですが、大きな出来事で例に挙げますと、戦争時の出来事などです。戦争時の出来事は悲惨なことが多く、心に深く悪い感情を与えます。しかし、その悲惨な出来事は、今後二度と同じ過ちを起こさないために伝えていかなくてはなりません。心の悪い感情は忘れないと前に進むことが出来ないと思います。ですので、人間には忘れるという能力があつて良かったと思います。

そして忘れるということに対しての2つ目の理由は、どうして神様がおっしゃられる陽気暮らしについて理解できた

ことまで忘れてしまうのか。そこだけは忘れないようにできなかったのか。せっかく悟ることができたのに、それでも忘れる必要があるのか？それについては、先ほどとは違い、理解が難しく、今の私には上手に説明することができません。しかしながら結論から申しますと、人間が自分の意思（自分の考えや思い）で自由に生きていくためという答えに辿りつきました。神様は人間の生き方考え方を無理やり神の道に矯正するようなことはせず、人間自らがその道を考え行動することを望んでおられるのだと思います。

私の3つのなぜだろう？その②なぜ何度も教えてくださるのか？これについては、この本、天理教教典に答えが記載されていました。神様は人間に陽気暮らしをさせたいとの想いがあるからだと書かれてあります。

私の3つのなぜだろう？その③なぜ最初から楽しくして下さらなかったのか？これについて簡単な例えを挙げてみます。皆さんはトランプゲームをしたことがあると思います。トランプゲームのババ抜きをする時に最初から誰がババを抜いて負けるか分かっていたら、ババ抜きは面白くないと思います。最初からゴールが見えると面白くないということだと思います。私は人生を生き抜くのは本当に大変だと感じて

います。ですから個人的には、最初から成功した人生のレールを歩きたいと思いますが、自分で考え、分らないながら必死に歩んでいくのが人生なのでしょうか。そこに人生を生き抜く楽しさがあるのでしょうか。

さて、『てびき』について私は、このような疑問を持ちました。子どもや障がいのある人に『てびき』を頂いたら、それはどのように理解したらいいのだろうか？それについて、このような答えになりました。

子どもや障がいのある人に『てびき』をもらった時、それはその人が理解するには少し難しいこともあると思います。ですから、子どもや障がいのある人への『てびき』にはその人だけではなく、その人の周囲にいる人への『てびき』でもあると考えられると思います。

これまでは、担当させて頂いた『てびき』について考えを申し上げさせて頂きました。しかしながら『てびき』イコール事情、身上。『てびき』イコール神様からの声掛け。が理解できたところで、どのように日々の暮らしに繋げていくのでしょうか？日々の日常をどのようにしたら、楽しく明るく暮らすことができるのでしょうか？私が幸せになるにはど

うしろいいのでしょうか？私はそれが知りたいです。『てびき』をもらい、自分の問題を指摘されても、それをどのように日々の暮らしに繋げ、自分の幸せに繋げていけばよいのでしょうか？

この本、天理教教典には次のようなことも書かれてありました。「この世は親神のからだである」と。私はこのことから、自分のからだも神様の一部ではないかと考えました。そのため、考えや行いが陽気暮らしから離れてしまうと自分のからだに知らせてくれるのではないかと考えました。

私は身上を頂いた時、このことをよく感じるがありました。自分のからだの声をよくきくと自然と陽気暮らしに導かれると感じました。自分のからだの声に素直にこたえていくと、だんだん、ただただ生きていることだけで幸せを感じるようになるようになりました。そして少しずつ身上がなくなっていました。

これらを踏まえて、日々陽気暮らしに向かう方法としては、いつも自分のからだに問いかけることだと思います。出来事が起こるごとに、自分の心はこの出来事をどのように受けとめると喜ぶのか？自分のからだはこの出来事をどのように受けとめると喜ぶのか？それを問うこと、そして喜びに近づけ

ること、それが陽気暮らしへの道だと思います。至らないところは多々ありますが、このあたりで終わらせて頂きます。ありがとうございました。



☆お知らせ☆

☆神殿お御簾が新しくなりました。ひのきしんの皆様方ありがとうございました。

☆7月26日（日）9時 本部月次祭（帰参は控えて教会、詰所、家庭で遥拝）

☆7月29日（水）18時 詰所祭

☆8月の女子例会はお休みです

☆8月9日（日）9時半 おぢばがえりひのきしん・男子例会（詰所）

☆8月18日（金）10時 女なりもの勉強会（他教会の方優先）

☆8月22日（土）前日準備ひのきしん、神名流し（夕つとめ後）

☆8月23日（日）11時 ≪月次祭≫

☆8月26日（水）9時 本部月次祭（帰参は控えて教会、詰所、家庭で遥拝）

☆8月29日（土）18時 詰所祭

☆以下の行事、今から心つもりと準備を！

☆11月1日（日）10時 女子おつとめ総会

☆目的、目標は、①新人勧誘 ②新役割挑戦 ③現役割熟達

☆11月23日（月・祝）11時 手揃い月次祭

◇雅楽練習 未定

◇千人鼓練習 8月8日（土）9日（日）

◇こどもおぢばがえり、学生会など夏の行事はすべて中止です

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分創り

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう！（毎月、25日までに申し込み）

・若い方＝これからの人生の基礎固めとして

・年配の方＝人生の美しい集大成のために